

政策調整会議の概要

開催日：H17.6.16

◎項目

1 地域支援企画員の取り組み状況について【企画振興部】

◎内容

1 地域支援企画員の取り組み状況について【企画振興部】

企画振興部から、地域支援企画員の取り組み状況について概要説明があり、以下のとおり意見交換を行った。

【説明概要】

- ・ 住民力を高め、県の仕事のやり方を変えるために、平成15年度：7名、平成16年度：50名、平成17年度：60名を配置した。
- ・ 有効な活用策については、市町村への訪問、地域支援企画員に対する直接聞き取りなどを行い、検討を進めている。
- ・ 地域支援企画員の仕事を大きく分ければ、地域へ入り住民の意見を良く聞く 地域ニーズ、問題等を把握する アドバイスや情報提供、地域と行政とのつなぎ役として地域の自主的活動の支援を行う。
- ・ 地域の住民活動で大切なことは人。
- ・ 地域支援企画員の取り組みは、「自助・共助の支え合いの取り組みの応援」「住民グループや集落などの活動の応援」の2つの活動と「その他地域を元気にする活動の応援」がある。最近の特徴は、農山村でグリーンツーリズムに取り組みたい地域が増え、地域支援企画員も情報提供を行っている。
- ・ しかし、地域支援企画員は市町村や住民団体から様々な相談やアドバイスを求められ、全てに対応ができないため、県庁からのサポートも必要となる。全体的に各課室も相談に快く応じていただいております、今後とも協力をお願いしたい。
- ・ 地域支援企画員の活動に対して何をしているのかわからない、存在感がないなどの不満の声もあり、これからも、活動のPR、市町村との連携強化等に取り組んでいく必要がある。
- ・ 地域の状況としては、全て行政まかせという意識から自分たちでできることはやろうという風潮に変わってきており、以前に比べ地域に元気が出てきたとも聞いている。
- ・ これまでの取り組みの状況は、
 1. 自助・共助の支え合いの取り組みの応援では、
 - 自主防災の活動：自主防災組織の立ち上げに向けた活動支援等を行っている。
 - 地域で支え合う活動：集落で住民が楽しく集える場づくりへの支援や子育て支援を行っている。
 2. 住民グループや集落などの活動の応援
 - グリーンツーリズムなどへの取り組み：体験メニューづくりや運営の仕組みづくり等への支援を行っている。
 - 地域の特産品づくりなど：商品開発、地産地消などへの支援を行っている。
 - まちづくりの応援：商店街などの活性化や住民グループの活動への支援を行っている。
 3. その他地域を元気にする活動の応援
 - 企画提案や様々な大会等の実施にあたっての関係機関との連携、連絡調整等を行ったり、支援を行っている。
- ・ 平成17年度の増員にあたり、この制度に関するアンケート調査を行い、改善点として、市町村との連携の状況と活動が見えないの2点があげられた。そのため、平成17年度からは高吾北ブロックと仁淀

川下流域ブロックを統合して6ブロック(昨年度までは7ブロック)とし、各ブロックに団長を2名配置して市町村との連携強化に取り組んでいる。

- ・活動が見えないことについては、ホームページでの活動報告に加え、月1回 日曜日朝7:45 RKCの「おはよう高知」で地域支援企画員の関わった取り組みを放映する。第1回は、7月10日(日)に放映予定。
- ・地域のやる気を起こして活動につなげていくため、地域によって動きが見える地域と見えない地域がある。そのため、自主防災組織づくり、中山間地域の移動サービス、観光ビジョンのフォローアップの3点を共通テーマとして取り組みを行っていく。
- ・昨年度、各部局の主任企画員等を窓口をお願いしたが、今年度も引き続き協力をお願いしたい。

【主な意見】

- ・自主防災組織は、これから大事な役割を担う。春野町、中土佐町上ノ加江地区で活躍されている地域支援企画員は地域に密着した活動をされており、今後もぜひ力を貸していただきたい。
- ・各地域の情報が欲しいとき、意思決定をしたいときには、現場の状況をつかんでいるだろうから、連絡をとっていただきたい。
- ・県内に対してPRをしていかないといけない。もっと地域支援企画員の活動を見せるという工夫をした方がいいのではないか。

地域づくり支援課のホームページだけでなく、さん SUN 高知への掲載を行っている。工夫していく中でテレビ放送を行うこととした。

ホームページは県のトップページに掲載できないか相談をしてみるといいのではないか。

- ・県庁への協力依頼はないか。
各課、出先には個々に協力をもらっている。
- ・人口減少、少子・高齢化の関係では、安芸市をフィールドに具体的に取り組んでいこうとしており、安芸駐在の地域支援企画員にも入っていただいている。また、県内6ブロックで行っている社会資本整備に関する検討会にも入っていただくなど、これからの具体的な取り組みの中にはぜひ入っていただきたいと思う。
- ・各部局が地域に密着した取り組みを行っていく場合には、積極的に地域支援企画員の参画・協力を考えてもいいのでは。

物部川清流保全計画づくりでは、地域支援企画員にも入っていただくとともに、地元の団体を紹介いただくなど協力してもらっている。今年度からは仁淀川清流保全計画づくりにも取り組んでいくため、一緒に取り組んでいきたいと考えている。

- ・一番大事なのは市町村の理解ではないか。
市町村との関係は、地域支援企画員と市町村職員が、一緒に外へ出て話をしていく中で若い市町村職員の意識も変わってきている地域もある。
- ・外からみた県の組織の課題をまとめたものがないので集約してみてもどうか。行政が変わっていきこうしているのをもっとPRした方がいいのではないか。共通テーマを持って取り組んでいるのはいいことだと思うので方向性を出した方がいいと思う。
- ・県庁が良かれと思うことが住民の立場に立てばこうしてほしいということがある。その代弁者になって、発信をしていけばいいのではないか。
- ・各部局の施策連携が薄いともいわれているので、今後ともお互いに協力をしていただきたい。
- ・県の新しい情報は次々と入れた方が動きやすく、情報を持っていることで住民も寄ってきやすくなると思うのでこまめに情報を入れていくと良い。
- ・地域支援企画員の成功事例等を共有していくことで、悩んでいる地域支援企画員の参考になるのではな

いか。地域ごとに状況は違うため、いろんな成功事例などから使えそうな活動の参考にしてもらえないか。